

鉄砲鍛冶屋敷共同研究調査成果普及事業



活動の目的

- ・ 関西大学と堺市がおこなった鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家資料の共同研究調査の成果を広く公開するとともに、文化・ものづくりを核とした堺の魅力や、関西大学が取り組みを進めている大阪・堺に関する歴史研究の成果について、市民に普及を図る。
- ・ 2023年度に「(仮)堺鉄砲鍛冶屋敷ミュージアム」の開館を目指して、保存整備事業を進めている。今後、これらの保存整備事業についても、関西大学とさらなる連携が期待できる。

連携にいたる経緯

- ・ 2015～2018年度の4年間、関西大学なにわ大阪研究センターとの共同研究として「鉄砲鍛冶屋敷井上家資料調査研究」を実施した。同家の鉄砲関係資料を中心とした調査により、近世堺における鉄砲生産の実態のみならず、日本の鉄砲生産史にとっても大変価値の高い成果をあげることができた。
- ・ 2018年1月に関西大学堺キャンパスで資料調査報告会を実施し、初めて調査の内容を公開した。
- ・ その後も、共同研究が進行するにつれ、研究の成果を一般の人びとに理解しやすいよう公開する手段として、パネル展示や講演会、展覧会などをおこなった。これによって、関西大学が取り組んでいる「なにわ・大阪」に関する歴史的研究を進めるとともに、近世以来の堺のものづくりの歴史を市民にも広く周知し、文化財への親しみを持っていただくことができる。

活動内容

- ・ 関西大学堺キャンパスで、鉄砲鍛冶屋敷資料調査報告会（2017年度）
- ・ 鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家住宅で、鉄砲鍛冶屋敷共同研究調査成果パネル展・資料展示（2018・2019年度）
- ・ 関西大学東京センターで、鉄砲鍛冶屋敷共同研究調査成果講演会・資料展示（2019年度）
- ・ さかい利晶の杜で、鉄砲鍛冶屋敷共同研究調査成果展覧会（2020年度）
- ・ 堺市役所高層館1階ロビーで、鉄砲鍛冶屋敷共同研究調査成果パネル展（2020年度）

活動の成果

- ・ パネル展は、堺文化財特別公開にあわせて実施し、堺の歴史に関心のある方や観光客などに、堺と鉄砲生産の歴史や鉄砲鍛冶屋敷資料調査の研究成果についてPRをおこない、3,000人以上の入場者数となった。
- ・ 東京講演会では、関東地方の人びとに、鉄砲鍛冶屋敷資料調査の成果を広く発信することができた。
- ・ 展覧会は、コロナ禍の最中ではあったが、来館者約1,700人に、鉄砲鍛冶屋敷資料調査の研究成果を周知できた。また、関連企画として講演会や展示解説、ワークショップをおこなった。

今後の課題・目標

- ・ 2019年度までは、パネルや講演によって鉄砲鍛冶屋敷についての発信をおこなってきたが、2020年度には実物資料を数多く展示した展覧会を初めて開催することができた。これからも、ミュージアム開館に向けてさまざまな企画をおこない、その機運を高めていきたい。
- ・ 鉄砲鍛冶屋敷の資料調査及び研究の成果を活かし、堺の歴史や文化、文化財保護に関する普及啓発活動を、関西大学と堺市が連携して推し進めていきたい。

教員紹介

文学部教授 黒田 一充（くろだ かずみつ）

日本に古くから伝わる生活文化や民間信仰、祭り、民俗芸能などを研究しています。現地調査に加え、文書や記録などの歴史資料も参照しながら、過去から現代まで世代を越えて伝わっている民俗行事の分析を試みています。



事業
領域

堺市推進事業

地域協働型事業
の推進

人間健康学部推進事業

学生の
学び力向上

教育研究の
地域還元

教員の専門分野・
学生活力の活用